

第23部

Integrated Distributed Environment with Overlay Network

斉藤 賢爾、土井 裕介

第1章 はじめに

IDEON は、Integrated Distributed Environment with Overlay Networkの略であり、オーバーレイネットワークによる自律分散環境の研究を行っている。

研究が社会で役立つのは、それによるイノベーションが実際に起きるときである。オーバーレイネットワークは、基本的に、ネットワークを応用するためには必ず形成する必要があり、その研究開発が適用可能な領域は多岐に渡る。IDEONの仲間たちは、オーバーレイネットワークの基礎技術から個別のアプリケーション層まで幅広い研究活動を行ってきた。

第2章 2023年の活動

2023年は、昨年に引き続き、IDEONのメンバそれぞれが、これまでの研究成果を礎として、新たな領域へと活動を広げた。

2013年、デジタル通貨(デジタル技術により創られたオルタナティブ通貨)の一種であるビットコイン(Bitcoin)が、いわゆるリアルマネーとの交換レートにおけるその急激な価格上昇に伴い、にわかに社会の注目を浴びることになったが、IDEONではその設立(2002年)の当初からデジタル通貨の研究を続けており、その20年以上の研究の蓄積から、ビットコインおよびそれを下支えする技術であるブロックチェーンや、その一般化概念である台帳技術を巡る状況に対して、発言すべき内容を持っている。

2023年は、ブロックチェーンやその応用の意味論の更なる整理を試みるとともに、

- 2022年9月のアップデート(The Merge)を経たEthereumブロックチェーンの仕様の整理とその課題に対する問題提起

- Web3概念の流行を受けた、技術と技術史の正確な理解に向けた啓蒙

などの活動を行った。

第3章 おわりに

社会が大きく、しかし社会的な速度で(つまり序破急で)相転移を迎えようとしている今、IDEONの活動が貢献できる場面は多岐にわたると考えられる。ビットコインやブロックチェーンの概念の普及により新たな局面を迎えたP2Pと金融およびその他の産業領域に関する課題はその一例である。

また、ようやく収束しつつある新型コロナウイルスによる感染症COVID-19のパンデミックは、社会において統合分散環境が必要とされる地平を更に押し広げたと言える。

今後も、統合分散環境の構築技術により社会に貢献できる道を様々な方面で探っていきたい。